

肥満傾向児・痩身傾向児の出現率の算出・判定方法

《調査結果に関する注意事項と説明》

1. 本調査の集計・分析において、実技調査、児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査の回答の精査を行い、性別不明など一部のデータは集計・分析の対象外としている。
2. 本調査の結果においては、平均値が必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、標準偏差などの情報と併せて総合的に結果を分析し、評価することが必要である。
3. 都道府県別資料は公立学校のみが対象となっている。
4. 児童生徒質問紙と学校質問紙の回答結果（百分率）は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までで示しているため、百分率の合計が100%にならないことがある。（複数回答を除く）

| 用 語 | 解 説 |
|-------|--|
| 標 本 数 | 平均値、標準偏差を算出した人数。 |
| 平 均 値 | 調査結果の算術平均値で集団の尺度上の位置を示す。「平均値＝調査結果の総和／標本数」 |
| 標準偏差 | 調査結果の個人差の大きさを示す。平均値±標準偏差の範囲内に全体の68%が入る。 平均値±標準偏差の3倍の範囲内にほぼ全体が入る。 「標準偏差＝分散の平方根、分散＝偏差平方和／（標本数－1）、 偏差平方和＝偏差の平方の総和、偏差＝調査結果－平均値」 |

$$\text{標準体重 (kg)} = a \times \text{身長 (cm)} - b$$

$$\text{肥満度 (\%)} = [\text{自分の体重 (kg)} - \text{標準体重 (kg)}] \div \text{標準体重 (kg)} \times 100$$

標準体重を求める係数

| 年 齢 | 男 子 | | 女 子 | |
|---------|-------|--------|-------|--------|
| | a | b | a | b |
| 6 (小1) | 0.461 | 32.382 | 0.458 | 32.079 |
| 7 (小2) | 0.513 | 38.878 | 0.508 | 38.367 |
| 8 (小3) | 0.592 | 48.804 | 0.561 | 45.006 |
| 9 (小4) | 0.687 | 61.390 | 0.652 | 56.992 |
| 10 (小5) | 0.752 | 70.461 | 0.730 | 68.091 |
| 11 (小6) | 0.782 | 75.106 | 0.803 | 78.846 |
| 12 (中1) | 0.783 | 75.642 | 0.796 | 76.934 |
| 13 (中2) | 0.815 | 81.348 | 0.655 | 54.234 |
| 14 (中3) | 0.832 | 83.69 | 0.594 | 43.264 |

判定基準

| 肥満度 | 判 定 |
|-------------|-------|
| 50%以上 | 高度肥満 |
| 30～49.9% | 中等度肥満 |
| 20～29.9% | 軽度肥満 |
| -19.9～19.9% | 正 常 |
| -29.9～-20% | や せ |
| -30%以下 | 高度やせ |

（文献：「児童・生徒の健康診断マニュアル（改訂版）」より平成18年3月31日発行 財団法人日本学校保健会）